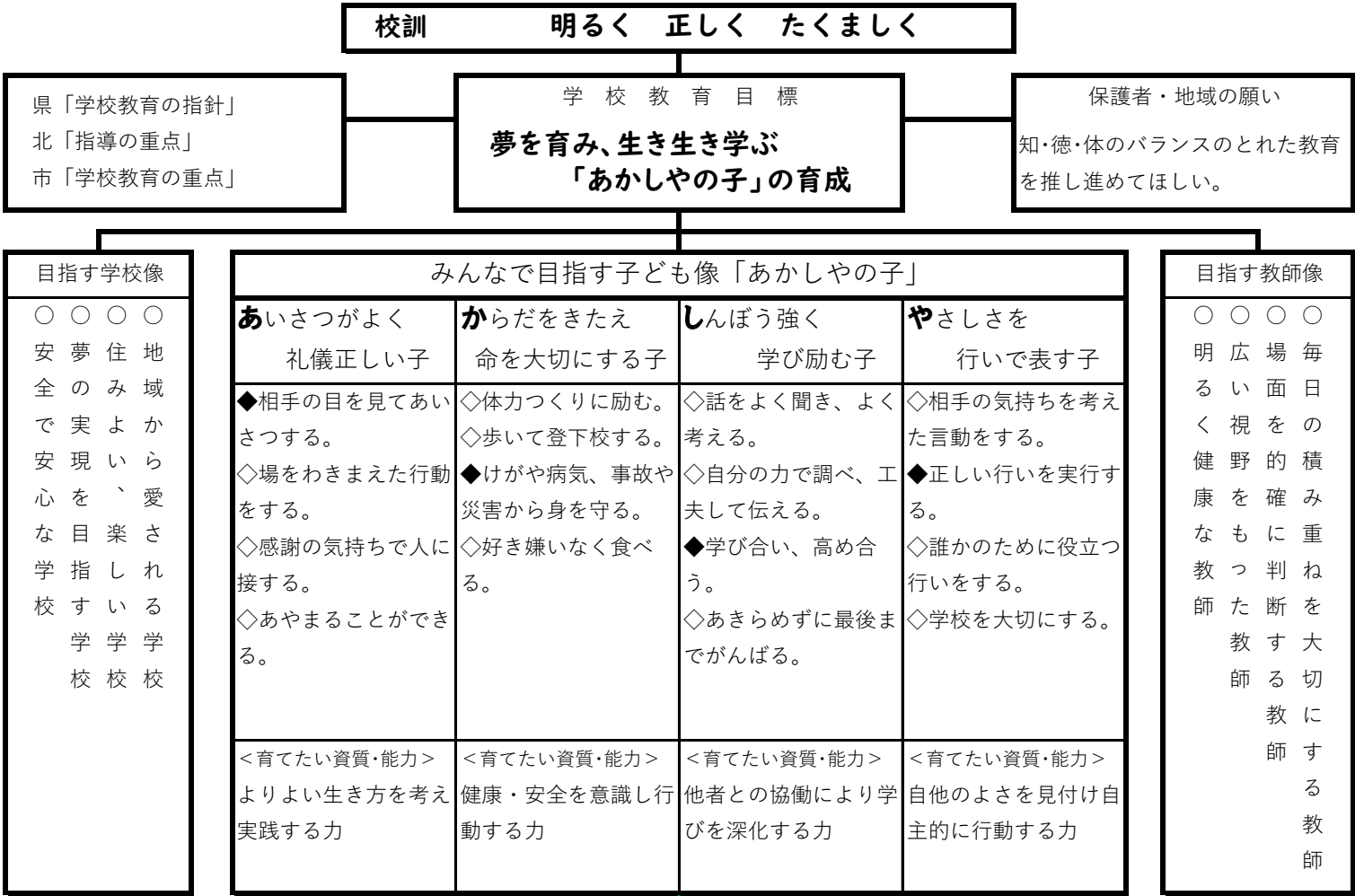




◆合言葉

みんながのびる みんなでのびる

経 営 の 重 点
CMM（カリマネマインド）でPDC _{adcadcadC} Aを機能させて、第四小の質の改善を続ける。
1 生徒指導の充実と適切な特別支援教育の推進 ●児童にとって、「心の居場所となる学校」「絆づくりの場となる学校」とする。 ・「生活安全」「交通安全」「災害安全」に係る指導を計画的に行い、「正しい行いを実行する力」を育てる。 ・児童の状況を把握し、諸機関等と連携し、いじめ・不登校等の未然防止・即時対応に努める。 ・温かな相互評価（友だちを認める・励ます場の設定）と適切な自己評価（気付きを促す問いかけ）で自己実現を図る。 ・学級活動や児童会活動・学校行事等で、自己有用感を高める活動・振り返りを継続し、気づきを促す。 ●児童の実態を把握し、特別支援教育に係る研修を進め、支援を必要とする児童への指導方法を工夫する。
2 授業力の向上 [7-2-3-10-8構成を生かす] ●分かる、できる、楽しい授業を構築し、学力の向上・維持に努める。 ・生徒指導と特別支援教育の視点で授業を構成し、児童が安心して学習でき、間違いを大切にできる望ましい集団づくりに努める。 ・探究型授業の基本プロセスを意識した授業マネジメントを機能させる。 ・教科・総合的な学習の時間を横断的に結び、協働的な学びの充実を図る。 ・初任者研修を核として、授業を見合う会等でOJTを機能させたチーム研究の取組を推進する。
3 健康・安全の意識化と実践 ●望ましい運動習慣と生活習慣を確立し、体力の向上と生活リズムの定着を図る。 ・体育学習と長休み時間で、運動による爽快感を味わう機会を保障する。 ・家庭と連携してメディア・コントロールに係る指導と啓発を継続する。
4 ふるさと教育・キャリア教育の推進 ●地域学校協働活動を核とした体験活動等を通して、地域で自立的に生きるための社会性、自主性、意欲等を育成する。 ・地域人材・施設、関係機関、幼保・小・中・特別支援学校との連携を促進し、教育活動の充実を図る。